



HP

「4トンの準備」

校長 菅谷 和孝

校庭の木々から響く蝉時雨とともに、一学期が締めくくりの時を迎えました。振り返ればこの一学期、本校は生徒たちのエネルギーに満ちあふれていました。全校が一丸となってバトンを繋ぎ、絆を深めた体育祭。3年生にとっては部活動の集大成となった学校総合体育大会。どの会場でも、一步も引かない熱い闘志と、仲間を信じて声を枯らす感動的な姿が見られました。また、1年生にとっては初めての定期テストがあり、中学校での新しい学習に真剣に向き合う一歩を踏み出しました。そして、これらの経験を重ねるごとに、これからは2年生が中心学年として学校を引っ張っていくのだという、頼もしい覚悟と自覚も強く感じられました。それぞれの場所で全力で挑戦し、心身ともに大きく成長した生徒たちの姿を、大変頼もしく、誇らしく感じる事ができた1学期でした。

さて、記憶に新しいところではありますが、先日のサッカーワールドカップでは、日本代表の熱い戦いが世界中を沸かせました。決勝トーナメントでのブラジル戦、最後の最後まで勝敗の行方が分からない激闘の末、日本代表は惜しくも一歩及ばず、逆転負けを喫しました。ピッチに崩れ落ち天を仰ぐ選手たちの悔し涙、そして悔しさを胸に抱きながらもスタンドから惜しめない拍手を送るサポーターの姿は、多くの人の胸に深く刻まれたことと思います。



写真: Yahoo!ニュースより

このワールドカップを通じて、私たちがこれからの生き方として学ぶべき「大切な舞台裏の話」があります。それは、テレビの画面にはほとんど映ることのない、日本代表を影で支えた裏方スタッフの存在です。日本代表が遠征時に移動させる荷物の量は、総重量にして約4トン、個数にして300個以上におよぶそうです。さらに、泥だらけになった選手全員分のユニフォームやウェアを、深夜までかかって洗濯し、管理する枚数は、実に一日650枚を超えます。気の遠くなるような、地味で、そして圧倒的に「面倒な仕事」です。しかし、裏方スタッフの方々は、その仕事をプロフェッショナルとして、毎日「一生懸命」にやり抜いていました。選手たちがスタジアムのロッカールームに入った瞬間、まるで高級ショッパのディスプレイのように完璧にユニフォームやスパイクが並んでいる。この誰も見ていない場所での「完璧な準備」があるからこそ、選手たちは世界一の舞台で全力で走り、輝くことができたのです。選手たちもその重みを分かっているからこそ、試合後にはスタッフを自分たちの輪の中心に招き、心からのリスペクトと感謝を言葉と行動で伝えていました。

この姿は、私たちが日常生活のなかで、学習や部活動、あるいはそれぞれの夢や目標に向かって頑張っていく道のりと全く同じです。学校生活においても、子どもたちが華やかに表彰されたり、素晴らしい結果を残したりする瞬間があります。しかし、その輝かしい瞬間の裏には、必ず誰かの「4トンの準備」が存在しています。毎日朝早くから環境を整える教職員の存在、そして何より、毎日お弁当を準備し、泥だらけのユニフォームを洗濯し、笑顔で送り出してくださる保護者の皆様の存在です。生徒の皆さんには、自分が思い切り挑戦できている時ほど、目立たない場所で自分を支えてくれている人の存在に気づき、感謝できる心の美しさを持ってほしいと願っています。同時に、もう一つ大切なことがあります。それは、これから生徒の皆さんが大きな夢や目標を叶えようとする時、今度は「自分自身が、自分のための裏方スタッフにならなければいけない」ということです。スポーツなら「試合」、文化活動なら「発表会やコンクール」の方が楽しいでしょう。しかし、その華やかな舞台に立つための「基本」の手順を面倒くさがってすっ飛ばしてしまったらどうなるでしょうか。野球ならキャッチボール、サッカーならひたすら繰り返すパス練習。吹奏楽部なら、一本の音を長く伸ばし続ける地味なロングトーン。美術でいえば、鉛筆一本で何時間も続けるデッサンの練習。どれも一見すると、退屈で地味な繰り返しです。しかし、この基本を怠れば、試合でボールは捕れず、合奏で美しいハーモニーは響かず、思い通りの絵を描くこともできません。結局は、その先にある「本当の楽しさ」には絶対にたどり着けないのです。毎日の宿題や、漢字・計算の繰り返しといった学習も全く同じです。「地味だからやらない」「面倒だから後回しにする」のではなく、「地味な基本を一生懸命やるからこそ、その先にある世界が楽しくなる」という本質を、この夏休みにぜひ体感してほしいと思います。

部活動の大会やコンクールでも、全員が嬉し涙を流せたわけではありません。しかし、この「負け」や「失敗」をどう捉えるかが、今後の未来を大きく左右します。日本の伝統的な武道である「柔道」は、最初から相手を豪快に投げる練習はしません。最初に徹底的に練習させられるのは、相手に投げられた時に大ケガをしないための「受け身」、つまり「負け方の練習」から始まるのです。なぜなら、負けの悔しさや痛みをちゃんと知っている人、切磋琢磨した相手へのリスペクトを持てる人だけが、失敗を恐れずに次の勝利に向かって正しく立ち上がることができるからです。「負け」や「失敗」は、終わりではありません。次に大きく、より高くジャンプするために、グッと膝を曲げて「しゃがむ」瞬間なのだと言えます。ワールドカップの日本代表がこの悔しさを最大のエネルギーに変えてまた立ち上がるように、生徒たちにも、失敗の悔しさを次に立ち上がる強さに変えられる、しなやかで逞しい心を育んでほしいと考えています。

明日から始まる夏休みは、時間を自分でコントロールできる貴重な期間です。自分自身の夢のために、誰にも見えない場所で「地味で面倒な基本」を地道にコツコツとやり抜く期間にしてほしいと思います。宿題を計画的に進めること、毎日机に向かうこと。これらの一つひとつに、自分の中の「4トンの準備」を築き上げた人だけが、秋以降に大きな大輪の華を咲かせることができると確信しています。

最後になりますが、保護者の皆様、地域の皆様。生徒たちがこの夏、時に失敗し、しゃがみ込みながらも、自らの力で立ち上がろうとする姿を、どうか温かく見守り、支えていただけますようお願いいたします。生徒たちにとって、この夏休みが安全で、そして「最高の準備」に満ちた素晴らしい時間となることを心より願っております。